2025 年 IBS研究発表会 ・ IBSフェローシップ発表会
プログラム

主　催　：　一般財団法人　計量計画研究所
日　時　：　2025 年 7 月 22 日(火)　10:00～17:00
会　場　：　御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター　2F
　　ソラシティホール WEST

IBS研究発表会　10:00～12:20

□開 会　　**10:00**
□研究発表 **10:05～**

ウォーカブルなまちづくりをどう展開するか？
～空間×コミュニティ、2つの視点から～
林　健太郎（都市地域・環境部門　研究員）

データドリブンな立地適正化計画は実装可能か
～PTデータ、3D都市モデル活用からの知見～
森尾　淳（都市地域・環境部門　担当部門長兼グループマネジャー）

-- 休憩（15 分） --

交通計画への AI モデルの活用
～ヒヤリハット検知や渋滞予測への適用を例に～
宮内　弘太（データサイエンス室　研究員）

ビジョン・ゼロの実現に向けての政策課題
～道路交通法改正とゾーン30プラスの新展開、その先へ～
絹田　裕一（交通・社会経済部門　部門長）

-- 昼休憩 --

IBSフェローシップ発表会　13:30～17:00

□開 会　　**13:30**
□最終発表 **13:35～**

PARIS プロムナード・プランテ、NY ハイライン、TOKYO スカイコリドーの比較研究
吉野　和泰（鳥取大学工学部 社会システム土木系学科 助教）

シアトルのアラスカンウェイ高架橋撤去プロジェクトの経緯と評価
栗山　尚子（神戸大学大学院 工学研究科建築学専攻 准教授）

-- 休憩（15 分） --

□中間発表 **15:10～**

海外における都市の地区物流対策の取組みに関する考察
坂井　孝典（東京海洋大学 学術研究院流通情報工学部門 准教授）

台湾における LRT 整備の経緯とその事後評価
邱　秉瑜（一般財団法人 運輸総合研究所 研究員）
李　晨瑋（株式会社アルメック 海外事業本部交通計画部 マネージャー）

□初回発表 **16:10～**

イノベーションディストリクトを支える空間基盤に関する研究
岡田　潤（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 特任助教）

タイ国における区画整理事業の展開と課題に関する研究
日野　祐滋（一般社団法人 日本モノレール協会 専務理事）
大沢　昌玄（日本大学 理工学部 土木工学科 教授）

□総 評　　**16: 50**
□閉 会　　**17: 00**

※都合により発表内容等に変更がある場合がございます。予めご了承ください。
※都市計画 CPD 認定プログラム、土木学会継続教育（CPD）認定プログラム

一般財団法人 計量計画研究所
The Institute of Behavioral Sciences

ー IBS フェローシップのご紹介 ー

最終発表（第 28 回）

「PARIS プロムナード・プランテ、NY ハイライン、TOKYO スカイコリドーの比較研究」

吉野　和泰（鳥取大学工学部　社会システム土木系学科　助教）

パリ郊外鉄道ヴィンセンス線廃線跡の高架橋につくられたプロムナード・プランテ（4.9km）、およびニューヨークのウエストサイド線の高架部分に建設されたハイライン（2.3km）は、回廊公園や空中緑道として再設計され、多くの利用者に親しまれている。東京においても、東京高速道路（KK 線、約 2km）で、周辺まちづくりに合わせ、歩行者系ネットワークを形成し、上部空間を Tokyo Sky Corridor として整備する検討が進められている。

本研究では、これら PARIS プロムナード・プランテ、NY ハイライン、TOKYO スカイコリドーの 3 つを対象に、それぞれの歴史的経緯、周辺の再開発、事業方法等の比較研究を行う。

「シアトルのアラスカンウェイ高架橋撤去プロジェクトの経緯と評価」

栗山　尚子（神戸大学大学院　工学研究科建築学専攻　准教授）

良好な都市空間の創出を目的に、2019 年初頭、シアトルのアラスカンウェイ高架橋の代替トンネルが完成し、古い高架橋の閉鎖と解体が行われ、ウォーターフロント沿いの新しい開発が行われた。

本研究では、シアトルのアラスカンウェイ高架橋撤去プロジェクトの経緯を整理するとともに、現状における道路交通の実態と周辺の再開発を含めたウォーターフロントの整備状況を整理し、さらにその評価を行う。

中間発表（第 29 回）

海外における都市の地区物流対策の取組みに関する考察

坂井　孝典（東京海洋大学学術研究院　流通情報工学部門　准教授）

EC 物流の需要増は世界的な潮流となっている。その最大のボトルネックはラストマイル配送といわれ、日本も含め世界中でラストマイル配送のための地区物流対策が課題となっている。一方、具体的な地区物流対策の内容は各国で異なり、日本では都市内配送拠点の立地規制はないが路上での駐停車に対する規制が厳しく、一方欧州ではそもそも都市内への配送拠点の立地が難しい都市が多い。

本研究では、欧州を含めた海外の複数都市を調査対象に、地区物流対策の取組み等について情報収集し、それぞれの関係性を整理して、日本との比較整理を通して我が国の都市・交通政策への示唆と課題を考察する。

台湾における LRT 整備の経緯とその事後評価

邱　秉瑜（一般財団法人　運輸総合研究所　研究員）（写真左）

李　晨瑋（株式会社アルメック 海外事業本部交通計画部　マネージャー）（写真右）

台湾では、近年、高雄市の環状 LRT、新北市の淡海 LRT、安坑 LRT が整備・開業している。本研究では、これら台湾おける LRT 整備に関する計画構想と整備に至る経緯を整理するとともに、それに関連する沿線都市開発、都市交通政策を含む取組みや今後の延伸計画等について整理する。

また、これらの整理を踏まえ、2023 年 8 月に開業した宇都宮 LRT をはじめとする日本における LRT 整備との比較を通じ、今後の我が国における LRT 整備に関する課題をまとめる。

初回発表（第 30 回）

イノベーションディストリクトを支える空間基盤に関する研究

岡田　潤（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 ﾊﾋﾞﾀｯﾄ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ研究社会連携講座　特任助教）

イノベーションディストリクトに関する研究は、主にプレイヤーの組成の在り方や成長を支える経済支援の在り方が中心となっている。一方、地区の立地と都市圏内とのつながりや、交通基盤、交通空間・パブリックスペース、交通手段の使われ方など、空間基盤関連の基本的情報の分析は充分ではない。

本研究では、上記の問題意識を踏まえ、米国における都市のイノベーションディストリクト事例を複数対象として、最新の経済・社会面からの都市事情を把握したうえで、その現状の成果と特徴を整理し、日本への応用の方向性について考察する。

タイ国における区画整理事業の展開と課題に関する研究

日野　祐滋（一般社団法人 日本モノレール協会　専務理事）（写真左）

大沢　昌玄（日本大学理工学部　土木工学科　教授）（写真右）

タイ国では区画整理法が 2004 年に制定され、JICA など国際協力機関の支援のもとで区画整理手法が導入・実施されてきた。区画整理法の制定 20 年を経過し、改めて、わが国初の都市整備手法の国際展開であるタイ国の区画整理制度の成果と課題整理は、今後の都市整備手法の国際展開に必要と考えられる。 本研究では、タイ国での区画整理の事例を取り上げ、最新情報に基づく実態と成果を整理し、同国での区画整理事業の制度的・文化的・技術的な課題を多角的に整理する。